

平成29年度 社会科 授業改善推進プラン

①現状・観点別分析

- [全学年]「授業評価アンケート」において、1学年は75%、2学年は70%、3学年は94%の生徒が意欲や関心が高まり、さらに1学年は79%、2学年は73%、3学年は95%の生徒が知識や技能が身に付いていると答えている。一方、「単元や授業の終わりの振り返り」の達成率が、全学年共に他の評価項目に比べて低い。
- [1・2学年]「観点・領域別達成度検査」において、全国平均と比較すると、「関心・意欲・態度」は2.0ポイント以上上回っているが、その他の3つの観点においては上位層の人数割合は下回っている。
- [2学年]「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、社会科学習の土台となる「知識・理解」が東京都の平均を5.3ポイント上回り、その他の観点も上回っている。しかし、「読み取る力」の中の「取り出す力」や「解決する力」は3.0ポイント下回っている。
- [3学年]「観点領域別達成度検査」において、「関心・意欲・態度」は全国平均に達しているものの、その他観点は若干下回る結果となった。特に「思考・判断・表現」では6.0ポイント下回っている。

②課題

- [全学年] 教員が「単元や授業の終わりの振り返り」を意識して、生徒のさらなる知識・技能の定着を図ることが課題である。
- [1・2学年] 授業に対して意欲的に取り組む生徒が多いので、今後は、自分の意見を書いたり、考えを発表したりする場を設定することが課題である。
- [2・3学年] 身に付いている基礎的な「知識・理解」の力を生かして、地図・資料の読み取りや分析、必要な情報を取り出す力を高め、思考力・判断力等の育成を図ることが課題である。

③具体的な改善策

- 【「単元や授業の終わりの振り返り」を実践するために】
 - 授業や単元ごとに、復習プリントやワークなどを活用した振り返りを行い、反復することで基礎学力を定着させていく。
 - 定期考査前に、ワークシートなどを活用した振り返りを行い、復習する時間を設ける。
- 【「思考力・判断力・表現力等の育成」のために】
 - 自分の考えを表現し、発表する時間の確保を図る。
 - 単元毎に、短時間の意見交換や話し合いの場を設定する。
 - 授業で白地図やワークシートを使い、地図やグラフ等の資料に慣れさせる。